

主 題：女性に与えられた大切な務め

聖書箇所：テモテへの手紙第一 2章15節

「しかし、女が慎みをもって、信仰と愛と聖さとを保つなら、子を産むことによって救われます。」

このみことばは難しいですが、すばらしい真理を教えています。今日は母の日ですが、この箇所から、神が母親だけでなく私たち親に教えている真理を学んでゆきましょう。

☆神が与えている女性の務めとは、

この2：15を直訳すると、「しかし、女は子を産むことによって救われます。もし、彼らが自制心をもって、信仰と愛と聖さのうちに留まるなら。」となります。ここから二つのことを学びます。

○ 女性に与えられた務めは何でしょうか？

○ どうすればその務めを果たすことができるのでしょうか？

1. 女性に与えられた務めとは？

「子を産むことによって救われます」と、これが女性の務めについて教えていることです。

これは罪からの救いではありません。なぜなら、救いは行ないによるのではないからです（エペソ2：9）。また、失った信仰を子を産むことによって回復すると、これもみことばが教えることではありません。一度信仰を告白して救われたものは、その救いを失うことはないのです。ローマ8：1にこのように教えられています。「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」と、救われた者の救いは永遠です。再び救いを求める必要はないのです。また、ヘブル10：17には「わたしは、もはや決して彼らの罪と不法とを思い出すことはしない。」とあります。救われた者の罪を問われることはないのです。

「救い」ということばは、罪から人が救われるということの他に、「守る、解放、いやし」という意味でも使われます。ある神学者は、女性が出産するとき、あらゆる肉体的な危険から守られることをいうのだと言います。また、ある人は、「子」とは救い主イエスのことで、その救い主が世に生まれることによって私たちが救われるのだ、と言います。

この文脈からパウロが教えていることを見てゆきましょう。

ここに《二つの務め》を見ることが出来ます。

1) 子を産む

I テモテ2：9、10には女性に対する教えとしてこのように言われてます。「同じように女も、つましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪の色とか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行ないを自分の飾りとしなさい。」と。創世記3：16を見ましょう。「女にはこう仰せられた。『わたしは、あなたのみごもりの苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。』…」とあります。I テモテ2：14には「また、アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。」とあります。アダムとエバが罪を犯したとき、誘惑を受けたのはエバでした。そして、その誘惑に負けたのもエバでした。アダムは自分の意志で実をとって食べました。「子を産むことによって」とあるこの「よって」とは、救いをいただく手段を教えているのではなく、それに伴う状況を教えるのです。子を産むことによってもたらされる状況です。

2) 子どもを養育すること

子を産む務めとともに、その子どもを養育してゆくことが母親の務めです。エバの罪によって全人類は罪をもってこの世に生まれてきます。神の栄光のために、神は人を造られたのに人間は神に敵対するものとなってしまったのです。この罪をもって生まれてくる子を正しく育てていくなら、問題から解放されて癒されて行く、と教えるのです。子どもを育ててゆくという責任、それを正しく成して行くなら、本来あるべき姿へと子どもは育って行くのです。

《 親としての責任は、子どもが神を愛するものとなること 》です。そのために、

・みことばを教えること、申命記6：7に「これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。」と命じられている通り、イスラエル人はみことばを子どもたちに教えてゆきました。そして、

- ・子どもためのとりなしの祈りです。子どもは親の所有物ではありません。神から託されたものであるゆえに、神のみこころを教え、その子のために祈ることが親の責任なのです。
 - ・子どもと時間をとること、その子どものことをよく知るために必要なことです。
 - ・子どもの模範となること、神に対して忠実に歩んでゆくことによって模範となるのです。
- これらは両親に与えられている務めですが、子どもとの時間を父親よりより多くもつ母親に神は教えているのです。

2 : 11、12を見ると「女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。ただ、静かにしていなさい。」とパウロは言っています。これは当時の社会状況が背景にあります。女性の地位が低いためそれに反発して、女性は教会の中で男性に与えられているリーダーシップを取ろうとしていました。女性が教える対象は子どもなのだと、パウロは明白にするのです。テトス2 : 3-5でも「同じように、年をとった婦人たちは、神に仕えている者らしく敬虔にふるまい、悪口を言わず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。そうすれば、彼女たちは、若い婦人に向かって、夫を愛し、子どもを愛し、慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さとすことができるのです。それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。」とされています。年輩の女性は若い女性を教える、教会学校の教師としても、また、アポロは個人的に年輩の婦人から教えられたことがあります。

続く13、14節「アダムが初めに造られ、次にエバが造られたからです。また、アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。」とありますが、これは神の創造と罪のことを言っています。

神の意図は何だったでしょう？創世記2 : 18から見ましょう。「その後、神である主は仰せられた。『人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を送ろう。』」神である主が、土からあらゆる野の獣と、あらゆる空の鳥を形造られたとき、それにどんな名を彼がつけるかを見るために、人のところに連れて来られた。人が、生き物につける名は、みな、それが、その名となった。こうして人は、すべての家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名をつけたが、人にはふさわしい助け手が、見あたらなかった。そこで神である主が、深い眠りをその人に下されたので彼は眠った。それで、彼のあばら骨の一つを取り、そのところの肉をふさがれた。こうして神である主は、人から取ったあばら骨を、ひとりの女に造り上げ、その女を人のところに連れて来られた。」と、神はアダムにふさわしい助け手としてエバを造られました。エペソ5 : 23～キリストが教会のかしらであり、夫が妻のかしらであることが書かれています。男性と女性は違う責任が与えられているのです。男性の働きを助ける女性、それが神の創造のみわざが意図するところです。

エバが誘惑を受けたとき、そのそばにアダムもいたはずですが、エバはアダムのリーダーシップに従うべきでしたが、この出来事のイニシアティブはエバが取ったのです。その結果、創世記3 : 16「女にはこう仰せられた。『わたしは、あなたのみごもりの苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋慕うが、彼は、あなたを支配することになる。』」と神はエバに言われたのです。エペソ5 : 22にパウロはこう言っています。「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。」と。

⇒神はなぜ女性を造られたのかを覚えることです。あなたはすべてに夫が第一でしょうか？自分の願い通りに事が進むことを願い求める私たちに、神はこのように教えています。家庭にあつては女性だけでなく、男性もともに大きな責任を持ちます。妻は夫に従い励まし助けることと、子どもたちにみことばを教え育てること、これが神から与えられている務めです。

2. どうすればその務めを果たすことができるのでしょうか？

15節は「もし～なら」ということで四つのことを教えています。

1) 慎み深くあること

これは自制心、思慮分別、欲を抑え節度をもって賢く歩んでゆくことです。永遠に価値あることが何なのか、神に喜ばれることが何かを、いつも考えてそれを行なってゆくことです。

2) 信仰

主への信頼です。決して希望を捨てない神への忠実さです。

3) 愛

兄弟姉妹に対する愛の思いと実践です。彼らの益のために労するのです。

4) 聖さ

罪から離れ、正しく歩んで行こうとすることです。

このような生き方をして行くなれば家庭において素晴らしい証がなされてゆきます。神はできないことを私たちに求めておられません。このような歩みは可能なのです。このように願うこと、そして、私を強めて用いてくださいと求めることです。

神はこのような女性を求めておられ、祝してくださるのです。